ベッドタウン お寺はじめました

うちわ太鼓をたたきながら街角を行く渡辺住職＝埼玉県越谷市、早坂元興撮影

埼玉県越谷市の閑静な住宅街。夕方、太鼓の音とともに「南無妙法蓮華経」の題目が響いた。日蓮宗僧侶の渡辺源昇さん(29)が約1時間、地域を回る。それは、新たな信者を増やすための布教でもある。

独身の渡辺さんが住職を務める源妙寺は、2014年にできたばかり。2階建て一軒家を家賃14万円で借り、1階の3畳間に本尊を掲げる。長崎市出身。寺の生まれではないが、中学校卒業後に得度した。日蓮宗宗門校の身延山高校（山梨）、立正大（東京）で学び、東京の寺に入った。

越谷市の人口は約34万人。都心にほど近いベッドタウンとして人口が増え続けているが、日蓮宗の寺はほとんどない。開設にあたって渡辺さんは、住宅の分布や交通量、住民の平均所得などを調査。不動産屋では「近所から不審がられる」と断られたが、知人を頼って東武鉄道越谷駅から徒歩7分の住宅に決めた。日蓮宗が3年間、家賃を含めて毎月35万円を上限に助成してくれる。

檀家ゼロからのスタート。駅前で毎朝「お寺はじめました」と記したビラを配った。お灸教室や写経の会を開き、人生相談にも応じる。信者は主婦や若い女性ら約70人に。信者以外の葬儀や法事のお布施もあり、寺の収入はおおむね月に100万円。「地域や家族のつながりが薄まり、頼れる存在が見つけにくい時代。寺は求められている」

寺とつきあいのない人たちが急増する都市部で、僧侶たちの「挑戦」が始まっている。

（岡田匠）

3面に続く

平成28年5月15日

日朝日新聞　第3種郵便物認可

細る檀家 仏教、都会シフト

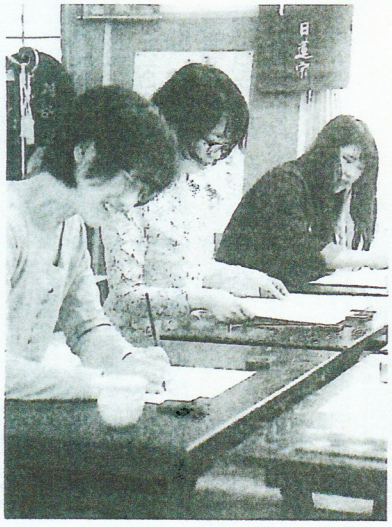
1面から続く

日蓮宗（総本山・身延山久遠寺、山梨県身延町）が、都市部に新たな寺を開く僧侶を支援する制度を始めたのは、2009年のことだ。05年から宗内に委員会を立ち上げ、どの地域に寺を開けばいいか、2030年の人口予測データなどを参考に検討した。

宗が指定した地域で募集し、書類選考や2回の面接を経て僧侶を決める。第1号は6年前、東京都国立市に誕生。埼玉県越谷市は2カ所目だ。

都市部の布教に力を入れるのは、地方から首都圏への人口流入に伴って寺とつきあいのない人が増え、寺を支えてきた檀家制度が揺らいでいるためだ。文化庁の宗教年鑑（14年版）によると、主要10宗派の檀家は約3200万人。10年前より、約185万人減った。約5千寺ある日蓮宗の調査でも、檀家が減った寺は1992年の約8％から、12年には約36％に増えた。

一方、都市部には日蓮宗の寺がほとんどない空白地がある。日蓮宗宗務院（東京）の高桑正路・伝道部主事は「ただ待っているだけではなく、空白地を活性化させ、日蓮宗の教えを伝えたい」という。



写経の会に参加した女性たち＝埼玉県越谷市、早坂元興撮影

マンション借りて寺■銀座のビルでヨガ

浄土宗（総本山・知恩院、京都市）も、宗の寺が少ない地域に戦略的に布教する。マンションを借りたり、自宅を改築したりして新たな寺とする僧侶に最長3年間助成。03年以降、首都圏を中心に21寺ができた。

真宗大谷派（本山・東本願寺、京都市）は10年、川崎市に重蓮寺を開いた。もともと別の宗派の寺だったが、宗教法人を解散したため、真宗大谷派が土地と建物を購入。門徒のいなかった石川県の寺の住職が入った。ほかに、千葉県でも寺の建立をめざしている。

02年からは、仏事代行制度も始めた。地方から首都圏に移った門徒の通夜や葬式を、首都圏の僧侶が担う。14年7月からの1年間で91件の利用があり、毎年約10件ずつ増えているという。

1960年代からの約30年間で、門徒15万世帯が地方から首都圏に転居したと分析。寺との関係が薄れた人が増えているとみている。「地方から都市への人口移動は今後も増える。時代に合わせた取り組みをしていきたい」と東京宗務出張所の史陀浩輝さん。

浄土真宗本願寺派（本山・西本願寺、京都市）の築地本願寺（東京都中央区）は早ければ来年度にも、カフェ併設のインフォメーションセンターを設置。24時間対応のコールセンターも始め、葬儀・法事の僧侶を紹介し、遺産整理や相続税など「終活」の相談に応じる。地方出身者らの墓の悩みを解決しようと、共同利用する合葬墓も造る。

宗派に所属する約1万寺のうち、東京、神奈川、千葉、埼玉1都3県には約330寺しかない。2年前から外部のコンサルタントも交えたプロジェクトチームで検討してきた。

東京・銀座のビルも借り、今月10日にサテライト・テンプルを開設。常駐する僧侶が相談に応じ、ヨガ体験会を始める。会員組織「築地本願寺プレミアム倶楽部」も発足させ、セミナーや無料相談会の案内を送ったり、家族の死去に伴う手続きに備えて司法書士ら専門家を紹介したりする。

安永雄玄・宗務長は「まずは寺に親近感をもってもらうために入り口を広く設けて、新しいコミュニティーを築きたい」と話す。

（岡田匠）